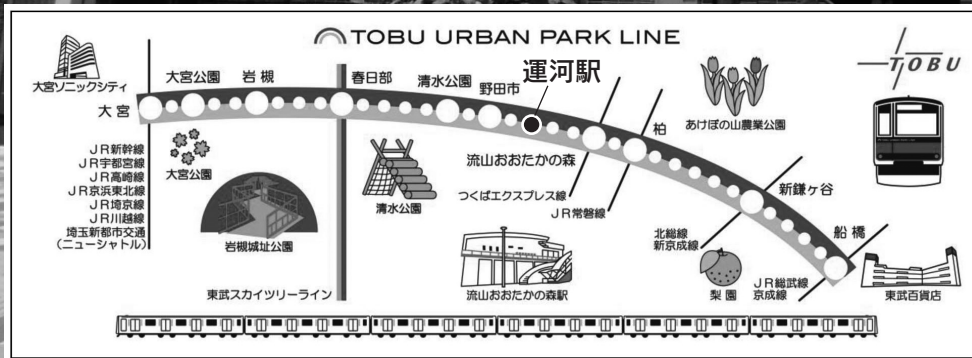


VOL.32 2014 AUTUMN



△「東武アーバンパークライン スポーツタール」イメージ

表紙：運河・新駅舎（2014年4月1日より東武アーバンパークライン（新名称）に）



野田建築会第9回定期総会報告

会長 五十嵐洋也（1978年卒）

第9回定期総会は、総会員数（6,015名）の1/60（101名）以上の参加（出席者+委任状=131名）を得、平成26年5月24日（土）午後2時より野田校舎講義棟K402教室にて開催されました。

第1号議案から第4号議案（事業、会報、名簿、及び情報部会の平成24年度、平成25年度事業報告と平成26年度、平成27年度事業計画）までを一括審議とし、決議されました。

第5号議案（理工学部50周年事業に向けて実行準備部会ならびに実行部会設立の件）について審議され、決議されました。

第6号議案（平成24年度、25年度決算報告・会計監査および平成26年度、27年予算案）について審議され、決議されました。

<決算>

	2012年（平成24年）度		2013年（平成25年）度	
前回繰越金	2,003,131		2,146,137	
収入	954,035		815,156	
年会費	152人	456,000	148人	444,000
卒業生入会金	151人	453,000	107人	321,000
総会懇親会参加費	45,000		0	
寄付	0		50,000	
その他（利息等）	35		156	
支出	811,029		1,135,140	
一般経費	811,029		1,135,140	
次期繰越金	143,006		-319,984	
当期残高	2,146,137		1,826,153	

※平成25年度は上原研究室OB会より寄付がありました。

<予算>

	2014年（平成26年）度		2015年（平成27年）度	
前回繰越金	1,826,153		1,828,553	
収入（会費）	326人	978,000	330人	990,000
支出	975,600		987,400	
名簿部会	23,000		0	
情報部会	116,000		116,000	
会報部会	716,600		751,400	
事業部会	60,000		60,000	
会計	10,000		10,000	
理工学部50周年関連	50,000		50,000	
次期繰越金	2,400		2,600	
当期残高	1,828,553		1,831,153	

第7号議案（任期満了に伴う役員改選の件）について審議され、決議されました。

職名	
平成24～25年度	平成26～27年度（案）
役員	
会長	
五十嵐 洋也（昭和53年卒）	五十嵐 洋也（昭和53年卒）
副会長	
山崎 晃弘（昭和51年卒）	山崎 晃弘（昭和51年卒）
事務局長	
瀬沼 央（昭和53年卒）	瀬沼 央（昭和53年卒）
会計	
斎藤 喬（昭和45年卒）	白岩 和浩（昭和60年卒）
熊井 和雄（昭和54年卒）	熊井 和雄（昭和54年卒）

監査役	
鈴木 治文（昭和47年卒）	鈴木 治文（昭和47年卒）
森下 誠（昭和49年卒）	森下 誠（昭和49年卒）
常任幹事	
事業部会	
菊地 利武※（昭和46年卒）	菊地 利武※（昭和46年卒）
高安 重一（兼任）	高安 重一（兼任）
会報部会	
涌井 栄治※（昭和60年卒）	山崎 晃弘※（兼任）
山崎 晃弘（兼任）	鳥山 暁子（平成13年卒）
名簿部会	
山崎 晃弘※（兼任）	涌井 栄治※（昭和60年卒）
涌井 栄治（昭和60年卒）	
情報部会	
高安 重一※（平成1年卒）	高安 重一※（平成1年卒）
	好土崎 倫子（昭和60年卒）
理工学部 50周年関連	
	山崎 晃弘※（兼任）

[注記] 常任幹事の※印は、部会長を示す。

以上、第1号議案から第7号議案まで決議され、総会を終了いたしました。

その後、第3食堂2階にて懇親会を開催し、和やかな中にも叱咤激励を頂き、貴重な時間を過ごさせていただきました。

今総会では、今までの活動を更に充実して行くことと同時に、有償会員の減少に歯止めをかけ、むしろ増やしてゆくこと、そして、理工学部50周年に向けて具体的な活動を開始することを認識し、種々改善を進めなければならないと思った次第です。大学及び学生へのアピール、学年幹事の組織充実が課題と考えます。この課題は、OB会組織の基本でありOB会活動そのものであるとも言えるかもしれません。昨秋から始まったキャリア支援授業への協力は大学との結びつきの新たな始まりの一つと思っています。今後も“OBと語る会”などを中心に大学及び学生との繋がりを太くしてゆきたいと思えます。OBの組織化については、従来の学年幹事を軸とした整備が中心ではあるものの、各研究室からの情報を積極的に収集して学年幹事をバックアップするようにしたいと思います。

その他に、寄付の件や理窓会関連団体加入の件などが取り上げられました。

役員・幹事の若返りが出来ました。会計では、当初より斎藤喬さん（昭和45年卒）と熊井和雄さん（昭和54年卒）に担当していただいておりますが、斎藤さんが卒業し白岩和浩さん（昭和60年卒）へ引き継がれました。熊井さん引き続きお願いします。情報部会には、好土崎倫子さん（昭和60年卒）が入りました。好土崎さんはITに滅法強い方です。そして、会報部会には、鳥山暁子さん（平成13年卒）が入りました。そうです、平成二桁です。ご紹介できなかった役員・幹事の方々には継続して野田建築会を盛り上げていただきたいと切にお願い申し上げます。また、衣笠先生、佐藤先生には一方ならぬご苦勞をお掛けして大変感謝申し上げます。

今後とも野田建築会充実のため、皆様、よろしく願いいたします。

【各部会活動】

事業部会 (菊地利武 1971 年卒)

学生とOBとの交流をはかる「OBと語る会」(卒業生リクルータによる就職ガイダンスを含み年2回)や学生の技術知識向上のために「現場見学会」を開催します。

毎年3月の終了証書授与式の折には教室会議により選定された「野田建築会賞(NAA賞)」を学生に授与し、定期総会終了後には懇親会を開催するなど同窓生相互の交流をはかります。

会報部会 (山崎晃弘 1976 年卒)

会報は年間2回、秋号(10月)と春号(3月)の編集および発行を行ない、内容については、定期総会・OBと語る会・現場見学会・各期同窓会・研究室OB会の各報告とともに、新任先生の紹介、卒業設計各賞・NAA賞の紹介や就職先状況その他最新情報などを提供します。

名簿部会 (涌井栄治 1985 年卒)

野田建築会の会員数は現在 6,015 名(2014 年 5 月現在)で、毎年 100 余名ずつ増えている状況です。

なお、2006 年(平成 18 年)以降、会員数が 5000 人を超えたことから、個人情報保護に関する法律施行を勘案し、名簿冊子の発行を休止しています。

引き続き、会員情報の管理、会報の送付者リスト・ラベルの作成(年2回)などを行ないません。

情報部会 (高安重一 1989 年卒)

メールマガジンは月2回のペースで配信していますが、野田建築会のHPは今年度よりリニューアルされ、会報のバックナンバーは発行済みのもの全てをご覧いただけるようになり、今後は過去のメルマガもHP上でご覧いただくことも検討しています。(「野田建築会」で検索下さい)

OB と語る会 2014 年 6 月 25 日



理工学部建築学科 佐藤利昭 助教

17 時に開始を予定していた「OB と語る会」は、開始時刻に学生の姿がほとんどなく、OB の同窓会の様相を呈していたが、いざ開始してみれば学生の数も次第に増え、盛況のうちに滞りなく会が終えられた。

1 人目の講演者である笠井隆司氏は、佐藤総合計画に長年勤められた設計者で、今は人材の管理なども担当されるようになり、実務から離れつつあることを嘆かれていたが、それでも長年続けられていた興味深い設計作品が、失敗談や具体的な業務内容とともに、数多く紹介された。講演は「Chapter1. 建築設計を目指す皆さんへ」というタイトルから始まり、Do you like architecture? を皮切りにいくつかの問いを学生に語りかけながら、話が進められた。同じ設計業務を請け負う職場でも、ディベロッパー、ゼネコン、組織設計事務所、アトリエ設計事務所といくつかに分類される組織があり、それらの違いを認識しながら自分の行き先を決めることなど、これから就職を考える学生には貴重な話が印象的であった。

2 人目の講演者の本間志のぶ氏は、カナダのバンクーバーにある Bing Thom Architecture に長年勤められ、今回は帰国にあわせて NAA が講演を依頼し、この機会が得られた。海外生活が長いと、「日本語の語彙を忘れてしまった」などの発言を交えながら、興味深い設計作品が数多く紹介された。法規や風土、さらには人の考え方も異なる敷地に建設された数々の建物は、学生にも魅力的に映ったようであった。印象深かったのは、自分の経歴を口頭で話されていたことで、苦労話も含めて学生に語りかけるように進められた講演は、海外での仕事を考

える学生には参考になったように思われた。学生にプレゼントするために数冊の作品集をお持ちいただき、質問をした学生にそれらをプレゼントするという面白い企画もあったのだが、結局、話が盛り上がりすぎてしまい、その後の懇親会の中で学生からの質問を受けられていた。

両氏の講演は、たくさんの共通点がありながら、異なる切り口、異なる語りかけで進められ、非常に興味深い内容であった。また秋に予定される「OB と語る会」にも期待したい。

講師略歴



笠井 隆司 氏

株式会社 佐藤総合計画
常務執行役員 経営企画本部・本部長
(社長室長・広報室長・品質保証室長兼務)
1977 年 東京理科大学理工学部建築学科 卒業
1980 年 株式会社 門建築事務所 勤務
1984 年 株式会社 佐藤総合計画 入社
1985 年 富山建築賞 受賞
(富山県勤労者総合福祉センター)
1991 年 全建賞 受賞(亀岡市庁舎)



本間 志のぶ 氏

Bing Thom Architects(BTA) Director
BTA とは Canada の Vancouver を拠点にし、Washington DC、Calgary、Albata、Hong Kong の各事務所で開催するデザイン事務所。
1978 年 東京理科大学理工学部建築学科 卒業
1980 年 世界一周旅行後、カナダへ移住
1982 年 Bing Thom Architects(BTA) Vancouver 勤務
2008 年 BTA Director 就任
2013 年 カナダ政府エリザベス女王ダイヤモンド賞 受賞

初見学先生の後任として～新任教授のご挨拶

山名 善之（やまな よしゆき） 教授



初見学先生の後任として着任し、卒業研究生 8 名と大学院生 1 名、私を含め計 10 の小所帯で新研究室をスタートさせました。

1990 年に理科大を卒業、香山アトリエ／環境造形研究所に 4 年ほど勤め、その間に、「彩の国さいたま芸術劇場」などのいくつかの公共施設の設計・監理を担当しました。27 歳のときに渡仏、フランス政府給費留学生としてパリ・ベルヴィル建築大学にて美術教育による建築再教育を受け、EU 認証のフランス政府公認建築家 dplg を取得しました。前後してパリ大学 I において研究活動を開始し、フランスの温室を源とするガラス鉄骨建造物の工業化過程、技術史研究で博士(美術史)を取得しました。学業・研究の傍ら建築家アンリ・シリアニ・アトリエなどに勤務、国立ナント建築大学で契約講師 (MC) を行いながら、結果としてパリ滞在が 8 年になりました。

2002 年の帰国以来、工学部第二部に勤務していましたが、4 月から理工学部で勤務することとなりました。パリ滞在中に、DOCOMOMO⁽¹⁾ や ICOMOS⁽²⁾ の活動に参加して以来、帰国後も、これらの国際的ネットワークのなかで、近現代建築の価値評価指針と保存活用計画の策定などが主なテーマになっています。これらに関連し国立西洋美術館を含む世界遺産推薦書類「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」にも帰国前から取り組んできました。

また、フランス国立アーカイブズでの研修から建築資料のアーカイブ化も継続研究課題となっています。一昨年度から文化庁官房政策課内におかれた国立近現代建築資料館設立に伴い、統括主任建築資料調査官として非常勤兼務していることもあり、この資料館とも連携しながら研究室活動を行っています。

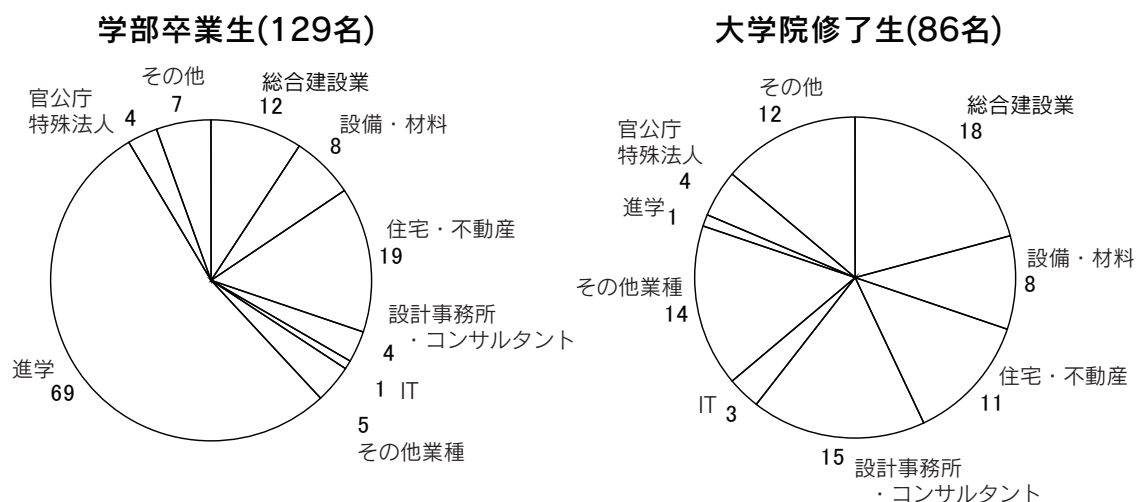
上記の二つのテーマは別個のものではなく関連しながら、建築のサステナビリティと建築の歴史的価値の創出につなげることを目指しています。高度成長期に我が国の建築学科が挙って研究対象とした新築時の建築ではなく、竣工後 30 年、50 年以上経過した「半過去」の近現代建築を対象とした史的価値を重視した計画学を目指しているのも山名研の特徴と言えるかもしれません。

近年、日本においても近現代建築に文化的、歴史的価値を見出すようになってきており、この分野における学術的整備が求められています。今後、山名研では上記の DOCOMOMO や ICOMOS などの国際組織と連携しながら、アジア、太平洋地域を基盤にしながる国際的な視野のなかで、調査、研究室活動を行っていきたいと思っています。

(Endnotes)

- (1) モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織 (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of the Modern Movement)
- (2) 国際記念物遺跡会議 (International Council on Monuments and Sites)

【2013 年度卒業生の就職先などの内定先をあらわすグラフ】



新任挨拶



高瀬 幸造 (たかせ こうぞう)
1983年 神奈川県横浜市生まれ
2007年 東京大学工学部建築学科卒業
2009年 東京大学工学系研究科建築学専攻・
修士課程修了
2012年 東京大学工学系研究科建築学専攻・
博士課程修了、博士(工学)
2012年 東京大学工学系研究科建築学専攻・
特任研究員
2014年 東京理科大学・井上研究室 助教

私は他大の出身なので、早く理科大に馴染まなければという気持ちを持ちつつ毎日を過ごしていましたが、あっという間に前期の講義も終盤に差し掛かりました。私は建築環境・設備のなかでも、住宅系の省エネルギー・温熱環境を中心とした調査・研究を行ってきました。また研究活動を行う一方で、大学時代の友人や諸先輩方との実務設計の中で環境・設備のコンサルのようなことも行っています。

井上先生と初めてお会いしたのは、数年前に「サステナブル住宅賞」という省エネ住宅のコンペに応募した際に、審査員として長野市の片田舎の住宅地にいらしていただいたときです。それから共同研究や海外でのワークショップといった色々な機会でご一緒させていただくこともあったのですが、今回偶然にも井上研に招き入れていただいたことに不思議なご縁を感じています。

実をいうと、私は学部生時代には環境系の研究者になるとは思ってもいませんでした。4年生になって卒業研究の研究室配属を決める際、第一志望の意匠系研究室には入れず環境系の研究室に配属になったのですが、いろいろなシミュレーションソフトで計算をしたり、何百万円もする風速計を自分たちで測定計画を考えてクライアントの家に置かせていただいて実測をしたりといったことが楽しくなり、気が付いたら研究生活も今年で9年目になっていました。理科大の授業でも、これまで自分が経験してきた「環境や設備を考えると、これまでとは違った建築の見え方をして楽しい!」といった発見を共有したいと考えて、日々の講義や井上研の学生の指導に臨んでいます。OB・OGの皆様にも、色々な形でコミュニケーションを取ればと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。

退任に寄せて



小林 謙介 (こばやし けんすけ)
1978年 愛知県生まれ
2006年 東京理科大学大学院 理工学研究科
建築学専攻 博士後期課程 修了
(独)産業技術総合研究所 LCA 研究
センター特別研究員
2008年 (独)産業技術総合研究所 安全科学
研究部門 社会とLCA研究グルー
プ 特別研究員
2010年 東京理科大学 理工学部建築学科 井
上研究室 助教
2014年 県立広島大学 生命環境学部環境科
学学科 准教授

2010年4月から2014年3月までの4年間、建築学科井上研究室の助教をしておりました、小林謙介と申します。理科大とは、学部、大学院の修士・博士課程の合計9年間お世話になったうえ、助教として4年間と、合計13年間の長きにわたり、お世話になりました。特に、助教としての4年間は、野田建築会の担当として、役員の皆様と学生との間を取り持つ役割を担当させていただきました。

役員、在校生などとの調整役としての役目は、多くの方と知り合いになる非常に貴重なものだったと考えております。また、OBと語る会においては、お招きする講師の方とも交流することができ、今更ながら、改めて、非常に大きな財産を頂いたと考えております。また、OBの方々のお話を伺っていると、設計、施工だけではなく、商社、環境コンサルなどなど、実に多様な方面でご活躍の方も多しことを実感し、多くの刺激を頂きました。

4月からは、県立広島大学 生命環境学部 環境科学科の准教授として活動しております。私自身、建築はもちろんですが、より幅広い分野の環境影響分析(LCAや資源循環性評価など)に関心があり、今回このポストを得ることができました。建築学科の出身として、少々異端かもしれませんが、土木工学、農学、社会学などなど、様々な分野の先生からいろいろな刺激を受ける毎日です。自分の研究室の立ち上げ、毎週の授業の準備などなど、追われるばかりの毎日ですが、とてもやりがいを感じており、充実した日々を送っております。また、研究室の窓からの景色には、大自然が広がっており、疲れた時にはのどかな景色に癒されています(写真)。

今は目先のことで精いっぱいですが、いつか、自分の研究室を巣立っていく学生たちが、OB会組織を作る日が来るのかもしれない。その時は、野田建築会で経験させていただいたことを役立てられたらよいな、と考えています。

* 活動の状況は、<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~kensuke/> で発信しております。



窓から広がる大自然

卒業設計賞の紹介

最優秀賞

「伝承の場の更新、或は残影」

清宮 あやの (初見研)



作品説明

福島県相馬市原釜地区。多くの人々が土地を手放し、去ろうとしているこの場所で、再び人々が集まって住む事を考えます。何もなくなった災害の跡地に原釜地区の人々のための新たな住処を計画し、先人達が残した教訓をその中にとけ込ませていきます。教訓とは、大昔の津波による経験から先人たちが津波浸水ライン上に建てた神社の記憶と警告であり、これから先も伝承されるべきものです。新たな住処での日常の中にこうした先人たちの記憶や警告が残る事により、この場所での生活を構築していく事が出来るのではないのでしょうか。

受賞コメント

生まれ育った相馬市を卒業設計の舞台にする事は、二年時から決めていました。ただ、相馬市にする事で直面するのが、大震災による多くの問題と人々の悲しみです。私がどこか目を背けていた事です。決るように切り取られた海までの風景を常に思い出しながら、私が私の立場として提案出来る事を考え続けると、受け止められない程の多くの感情が日々押し寄せてきました。被災地をテーマにする事はこういう事なのだと、目を背けてきた人々の想いを背負う事なのだと気づかされました。私の提案は人々を愚弄しているかもしれないと想い悩む日々の中で、最後まで支えてくれた先輩、後輩、研究室の仲間達には感謝きれないです。そして、ご指導をしてくださった先生方、本当にありがとうございました。

連続した空間は人々の多様な活動を許容すると同時につながりきっかけとなる。

複数の異なる機能や空間が絡み合い、今までにない体験を生み出す。

しかし現在の都心にはそうした空間を持つ建築はほとんど存在しない。

そこで、連続した空間のつくる建築の可能性を考えた。

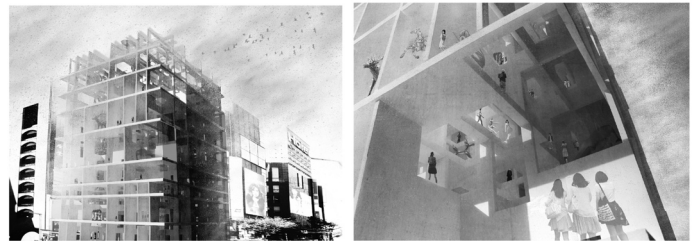
受賞コメント

卒業設計において二位という成績を頂けたことを大変感謝しています。私は本設計では空間性や形式性という、漠然としながらも建築において重要なテーマを純粋に追求していきたいと考えていました。

その中でも私は都心部の、今や当たり前とされている均質な空間に疑問を持ち、連続した空間によって機能や部屋が様々に絡み合った一つの建築を設計しました。

講評会ではこれまでの学部四年間で設計を指導して下さった多くの先生から様々な評価をしていただき、尊敬する建築家の方々と議論することが出来たことを嬉しく思います。

この場をお借りして指導してくださった安原先生、何度も助言を下された先輩方、率先して協力してくれた優秀な後輩、共に設計に励んだ同期に深く感謝を申し上げたいと思います。何度も背中を押して頂いたおかげで卒業設計をこのような結果で終えることが出来ました。ありがとうございます。



優秀賞

「遺の珠環」

土井 大基 (川向研)



優秀賞

「『空間の形』 - 連続する空間を持つ建築 -」

遠藤 優斗 (安原研)



作品説明

様々な『空間の形』によって連続する空間を持つ建築。

私は建築は空間の集合で、個々の空間が連続してつながりを持つことで建築総体が生み出されると考えている。

そうした建築は複雑で多様な空間を持ちながらも総体として一つの力強い空間の質を獲得することができるはずだ。

作品説明

震災は何を奪い、復興計画は何を寄与できただろうか。東松島市宮戸島月浜集落で現在進んでいる復興計画は、人々からその土地で生きる意味を奪うだろう。集落にとって真に取り戻すべきものは何か。現地を訪れ、人々に触れるうちに、現行の復興計画により失われつつある伝統と生業が浮かび上がってきた。

島という特異な土地では復興住宅の提供だけでは不十分である。遺された土地に、集落の精神である伝統行事「えんずのわり」を継承しつつ、生業であった民宿を再建する。

受賞コメント

卒業設計という大きな舞台でこのような素晴らしい賞を頂き、大変嬉しく思います。悩む時期もありましたが、そこから得るものも多かったと感じています。今回至らなかった点はしっかりと反省し、修士課程では今まで以上に精進したいと思いま

す。この場をお借りして、指導して下さった川向先生、サポートしてくれた後輩のみんな、先輩方、励まし合った同期に深く感謝申し上げます。

作品テーマについて

東日本大震災から3年が経ち、復興のかたちもある程度見えてきました。人々のかつての暮らしは表面上では戻りつつ



あるように見えます。しかし、震災が奪った多くのものに対する解答が現行の復興計画ならば、あまりに短絡的過ぎるのではないのでしょうか。現地を訪れて感じた違和感は、数年後に廃墟と化した光景を想像させる

ほどでした。

復興計画をゼロから提示するのは易しいですが、虚構性を帯びることは避けられません。卒業設計では実現可能性を考慮し、集落の未来を提示しようと試みました。

NAA 賞の紹介

「利根運河シアターナイト 2012」

星野善晴（川向研）
井上 遼（安原研）

日時：2012年10月20日（土）
場所：運河水辺公園（メイン会場）
東京理科大学 2号館 4階製図室（ワークショップ会場）
主催：東京理科大学「利根運河シアターナイト 2012」実行委員会
後援：流山市
流山市観光協会
流山市教育委員会
国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
NPO 法人コミュニティ流山
東京理科大学理工学部建築学科

プロジェクト説明

理工学部建築学科の1~3年生（当時）有志80名による「利根運河シアターナイト 2012」は、利根運河を舞台に、『学生・地域住民・行政・商店』が一体となって制作した、地域で初めてのイベントである。野田キャンパスは利根運河沿いに位置しているが、日々運河駅周辺を行き来する学生の多くは



身近にある利根運河の開放的な水辺空間を活かすことは少なく、また、その生活が地域に根付いているとは言い難い実情があった。そこで、学生たちが運河を自分たちのまちとして評価し、積極的にまちづくりのエネルギーとなるような環境をつくるため、産学公民（産官学民）が一体となり、一つの空間、体験を共有する場としてのイベントを開催した。開催当日は7000人を動員する成功を収め、地域からの要望や多大な協力もあり、



昨年秋には「利根運河シアターナイト 2013」が開催された。この冊子が発行される2014年秋には「利根運河シアターナイト 2014」が開催される予定である。



受賞コメント

大学が内に閉じることなく地域に開かれ、学生たちがまちを使いこなす。入学した頃からそのようなキャンパスを思い描いていた。私はそれまで数年間、ある演奏会の舞台監督を務めており、その劇場への関心と運営のノウハウを応用することで、利根運河を劇的空間にするという構想を実践にうつすことができた。今、団体は後輩たちに引き継がれ、次のステップに移っている。私自身、これらの経験を更に洗練させ、着実に自身の世界を構築していくことを試みると同時に、後輩達が想像力と創造力を開かせ、彼らの世界を構築するための手助けをしていきたいと考えている。（星野善晴）

きっかけは、街歩きからだった。都市に対して何か仕掛けることはできないか。3人から始まったこの前代未聞の試みは結果として80人以上の有志ある建築学生たち、自らの街に誇りを持つ地元の方々、自らの街を良くしようとする行政、企業の方々、その他大勢の協力者の方々によって実現した。学生は社会的信頼が低い。しかし、社会的活力は最も有しているのではないか。私たち建築学生は自らの持つ鋭いナイフと鈍い持続力によって社会的信頼を構築していかななくてはならない。（井上遼）

最後に、私達をNAA賞に選出して下さった野田建築会の皆様、プロジェクトをずっと支えて下さった岩岡竜夫先生に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

【平成 25 年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学科専攻 各賞受賞者一覧表】

理工学部建築学科				理工学研究科建築学科専攻			
卒業論文賞（一般コース）	優 秀	岩岡研	片岡大輔 松田岳史	修士設計賞	最優秀作品	伊藤研	星洸祐
卒業論文賞（通年コース）	最優秀	大宮研	柏崎創 鈴木匡 忽滑谷佳世		優 秀 作 品	岩岡研	中俣直紀
	最優秀	衣笠研	相沢勇人		優 秀 作 品	初見研	田澤孝祐
	優 秀	川向研	石橋聡悟 鴨志田智弘 高橋航	修士研究奨励賞	最 優 秀 賞	井上研	森勇樹
	優 秀	岩岡研	奥山翔		最 優 秀 賞	北村研	佐藤大輔
	優 秀	伊藤研	飯田遼平 栗田純吾 西山貴史		優 秀 賞	北村研	戸張涼太
	優 秀	北村研	谷内孝誠		優 秀 賞	兼松研	中野昌宏
	優 秀	永野研	天藤潤一				
卒業設計賞	最優秀	初見研	清宮あやの	共通			
	優 秀	安原研	遠藤優斗	NAA 賞		(岩岡)	星野善晴 井上遼
	優 秀	川向研	土井大基				

東武野田線運河駅の変貌

涌井 栄治 (1985 年卒)

2013年7月13日より運河駅駅舎は全体的に柏寄りに移動し、改札が2階となりました。さらに、2013年12月27日より運河駅東口が開放され、運河駅には西口と東口を繋ぐ自由通路ができました。駅舎にはエレベータ2基、エスカレータ2基、自由通路にもエレベータ2基、エスカレータ2基が設置され、野田キャンパスへは運河駅東口を出てまっすぐ道なりに行けば、ふれあい橋に到着するようになりました。

また、2014年4月1日より、東武野田線の路線愛称名が「東武アーバンパークライン」となりました。東京スカイツリーを通る東武伊勢崎線の路線愛称名が東武スカイツリーラインとなったのと似たようなものですね。

なお、東武野田線では2013年6月から新型車両60000系の導入が開始され、VVVFインバータ制御、LED照明、各ドア上部に車内案内用液晶ディスプレイ、さらに無線LANサービスにも対応した車両となっています。



【編集後記】

今年前半も大きな自然災害を受け、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、野田建築会は第9回定期総会(本文記事)を終え、今年で設立以来17年目を迎えました。ここまで大きな進展はまだまだ遂げられていませんが、地道な努力を続けながら、徐々に成果を出しつつ今日に至っています。

今総会では従来からの諸活動に加え、新たに承認された「理工学部50周年事業関連」が加わりました。これは2017年に迎える理工学部設立50周年の際に、大学で行なわれる記念事業を支援するもので、今年度はその準備部会を立ち上げる計画となっています。ちなみに、工学部は2012年に50周年を迎え、築理会(工学部建築学科OB会)が大学と協働して2013年に記念式典を実施しています。

幹事会ではこうした新たな動きとともに、就職リクルータによる「OBと語る会」を変更となった就活時期に合わせた開催時期にて検討中で、また技術向上のための建築現場見学会を今秋実施予定にて計画中です。

これらの活動に際しては、ますます会員の皆様にご協力をいただく機会が増えることとなります。

つきましては、皆様からさらなるご指導を賜りますよう、今後ともよろしくお願いいたします。

(山崎晃弘 1976 年卒)

今回から会報の編集に携わります、とりやまです。数年前に「OBと語る会」でお話させていただき、その時がはじめて会の活動に直接触れる機会となりました。この先の建築の行く先を常にキラキラした目で見つめ、行動している学生さん達。そんな若者達に自分の声を届けて直接意見を聞けることは、とても貴重な時間でしたし、学生さん達にとっても得が多い、本当に素晴らしい企画だなと感じました。しかしながら、せっかく素晴らしい活動をしているのに、会の主旨や意向が学生さん達や若い卒業生達にそこまで浸透していないな、という印象を受けました。その浸透していなかった側の立場として、会の活動をもっと広く伝えていけるように微力ながらも力添えできればと思っています。これからどうぞ、よろしくお願いいたします。

(とりやまあきこ 2001 年卒)



野田建築会会報 VOL.32 2014 AUTUMN

2014年10月1日

編集：会報部会(とりやまあきこ・山崎晃弘)

発行：東京理科大学野田建築会

〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

【訃報】

1989年卒(上原研)葛丸隆司(くずまる たかし)さん

2014年5月20日逝去

※NAA会報では知り得るなかで亡くなられた同窓生をお知らせしています

NAAからのお知らせ

【会費納入のお願い】

NAAでは会則により、2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。

(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

【NAAサイトのリニューアル】

野田建築会のHPが新しくなりました。

また、野田建築会ではメールマガジンを発行して、大学内の近況やOBからの情報を発信しています。

登録されていない方は以下のHPをご覧ください、お申込みください。

<http://www.rikadaikenchiku.com>